

Ⅱ. ジブチ共和国における調査

第1 ジブチ共和国の概況

(基本データ)

面積：2万3,200平方キロメートル（四国の1.3倍）

人口：88万人（2013年 世界銀行）

首都：ジブチ

民族：ソマリア系イッサ族（50%）、エチオピア系アフール族（37%）

言語：アラビア語、仏語

宗教：イスラム教（94%）

政体：共和制

議会：一院制（国民議会：65議席）

GNI：14.56億米ドル（2013年：世銀）

一人当たりGNI：1,270米ドル（2009年：世銀）

経済成長率：5.0%（2013年：世銀）

インフレ率：3.5%（2013年：世銀）

在留邦人数：40人（2015年10月現在、除く自衛隊関係者）

1. 内政

1977年の仏からの独立以降、ジブチ住民の大部分が属するイッサ族（ソマリア系）とアフール族（エチオピア系）の対立を背景とする紛争と、国民融和に向けての努力が繰り返されてきた。1991年、政府軍と反政府軍FRUD（統一と民主主義回復のための戦線、アフール系）の武力衝突により内戦が勃発したが、1994年、政府とFRUDは和平合意し、2001年には最終和平案が合意された。大統領選挙は1999年、2005年、2011年とゲレ大統領が三選を果たしている。2013年の国民議会議員選挙は、野党側の参加も得て実施されたが野党は結果に反発。2014年末、政府野党間で政治合意が署名され、野党側の求めている国家独立選挙委員会（CENI）の設立等について議会内の特別委員会の下で協議されていく予定である。

2. 外交

旧宗主国仏を始め、全ての国との友好協力関係維持に努力している。近年アラブ連盟の1か国として近隣のサウジアラビアを中心とするアラブ穏健派との関係が深い。2001年9月の米国同時多発テロ事件以降は、従来から駐留する仏軍に加え、米軍基地が置かれ、独、西軍も駐留している。また、我が国をはじめ、ソマリア沖海賊対処にあたる各国は主にジブチを拠点としており、2011年6月には我が国自衛隊航空隊の拠点が開設された。

3. 経済

厳しい自然環境のため国土の大部分で農業は未発達である。主な収入源は、中継貿易、ジブチ港の港湾施設サービス、仏軍、米軍等の駐留による利益である。

1991 年よりソマリア等周辺諸国からの難民・避難民を受け入れ、うち 1996 年 4 月までにエチオピア難民約 5 万人が帰還したとされるが、依然として 1 万人以上のソマリア難民、エチオピア難民が存在し同国経済を圧迫している。また、経済及び財政建て直しのための緊縮財政を余儀なくされている。2001 年 11 月、世銀・IMF の主導の下、貧困削減戦略文書暫定版（I-PRSP）が策定され、2004 年 5 月、同文書の完全版（F-PRSP）が策定されている。現在、ジブチ政府は、これらの文書に基づく経済政策を実施している。

4. 日・ジブチ関係

（1）政治関係

1977 年 6 月、ジブチを承認。1989 年 4 月、ジブチ大使館が東京に開設、日本側は独立当初は在フランス大使館、次いで在エチオピア大使館が兼轄。1986 年、南イエメン（当時）内乱から脱出した在留邦人 38 名がジブチに脱出した事を契機に両国関係は緊密化。さらに、1994 年 5 月、イエメン内戦で緊急脱出した在留邦人及び邦人旅行者 75 名が、ジブチ経由で帰国。2009 年 3 月、日本はソマリア沖・アデン湾の海賊対処のため護衛艦 2 隻を派遣、6 月からは P-3C 哨戒機による活動も開始、双方ともジブチを拠点としており、2011 年 5 月には航空隊の拠点をジブチに設置した。

日本は、2009 年 3 月に在ジブチ連絡事務所、2010 年 4 月に兼勤駐在官事務所を設置、2012 年 1 月に在ジブチ大使館を開設した。

（2）経済関係

①貿易額・主要貿易品目（2013 年）

輸出 0.09 億円 再輸出品

輸入 11.55 億円 自動車、タイヤ

②我が国からの直接投資

なし

（3）二国間条約・取極

1999 年 青年海外協力隊派遣取極

2005 年 技術協力協定取極

2009 年 ジブチ共和国における日本国の自衛隊等の地位に関する日本国政府とジブチ共和国政府との間の交換公文。

（出所）外務省資料より作成

第2 我が国のODA実績

1. 概要

我が国のジブチに対する経済協力は、1982年度の食糧援助にさかのぼる。1983年度には無償資金協力を開始し、道路整備計画を支援した。1996年から草の根・人間の安全保障無償資金協力を開始。1999年には同国と我が国の間で青年海外協力隊派遣取極が締結され、農業・保健・教育等の幅広い分野での隊員の活動は、ジブチ政府からも高く評価されている。2005年には技術協力協定が締結された。同国では1990年代前半に政府軍と反政府軍の間で内戦が勃発し、欧州各国が援助を控える中で、我が国は継続して経済援助を行ってきた。これに対して、ジブチ政府及び国民から高い評価が寄せられている。

我が国の対ジブチODA実績（単位：億円）

年度	有償資金協力（円借款）	無償資金協力	技術協力
2009	-	29.04	3.26
2010	-	8.53	3.31
2011	-	2.81	4.86
2012	-	23.74	2.69
2013	-	11.99	5.02
累計	-	295.15	44.44

1. 円借款、無償資金協力はE/Nベース、技術協力はJICA経費ベース

2. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。

2. 対ジブチ経済協力の意義

ジブチの国土は狭小であり、自然環境も厳しく、港湾・物流等のサービス業以外に経済を牽引する産業はなく、経済社会基盤は脆弱である。一方、同国は、東アフリカの物流の拠点であるとともに海賊対策を始めとする国際的課題に積極的に取り組んでおり、我が国がODAを通じて支援することは、同国が抱える様々な国内的課題の解決を後押しし、その安定と発展を促進するとともに、東アフリカ地域や我が国を含む国際経済の安定的発展にも貢献することが期待される。

3. 対ジブチ経済協力の基本方針と重点分野

「アフリカの角」地域の安定に貢献しているジブチの安定と持続可能な発展を後押しするために、都市化の進むジブチ市を始めとする社会基盤の強化及び発展を支える人材育成を支援する。重点分野としては、以下の3つがある。

①持続可能な発展のための経済社会基盤整備：急激な人口流入が進んだジブチ市では、都市化に伴う問題への対処が急務となっている。また、港湾・サービス業は今後もジブチの主要産業であり続ける見込みである。このため、同国の持続可能な発展に向け、都市部における電力や港湾等都市機能の拡充を始めとした産業インフラ整備や生活環境整備の強化を支援する。

②経済社会開発を下支えする人材の育成：教育の質の向上や保健指標の改善等を目

的とした、基礎的社会サービスの向上に繋がる人材育成を行う。また、若年層を始めとした深刻な失業率を踏まえ、同国の雇用創出を支援するとともに、雇用に繋がる人材育成を行う。

③地域の安定化努力強化：ソマリア等周辺国の不安定に起因する海賊や難民・移民、密輸・密漁等の問題に対処するため、ジブチ政府の海上保安等能力強化を行う。また、関係する国際機関とも協力しつつ、難民・移民対策等の各種支援を行う。

4. 参考

〔主要援助国のODA実績（支出総額、単位：百万ドル）〕

暦年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	うち日本	合計
2008	仏 52.11	米 8.54	日 3.74	スイス 0.86	スペイン 0.56	3.74	67.01
2009	仏 42.58	日 28.82	伊 12.03	米 6.35	スペイン 2.67	28.82	98.30
2010	仏 46.81	日 37.98	米 13.29	伊 0.44	ノルウェー 0.33	37.98	99.79
2011	仏 45.08	日 16.57	米 16.53	独 6.80	加 2.86	16.57	90.56
2012	仏 41.19	日 24.84	米 9.17	伊 4.95	独 2.66	24.84	87.20

〔最近の我が国の主な経済協力実績（単位：億円、E/N ベース）〕

無償資金協力	技術協力
・ H20. 1, H20. 5 タジュラ湾海上輸送力増強計画（詳細設計含む）（8.80） ・ H21. 4 食糧援助（8.60） ・ H21. 4 ラジオ・テレビ放送局番組作成機材整備計画（9.25） ・ H21. 6 ノン・プロジェクト無償（5.00） ・ H21. 11 太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画（6.10） ・ H21. 12 初等・中等教員養成校建設計画（7.67） ・ H22. 3 気候変動による自然災害対処能力向上計画（5.00） ・ H22. 12 ノン・プロジェクト無償（3.00） ・ H22. 12 難民支援（2.72） ・ H23. 2 南部地方給水計画（4.89） ・ H23. 10 食糧援助（2.10） ・ H24. 2 第4次補正予算（9.71）干ばつ等の対策のため、総額約10億円を拠出。UNICEF（80万ドル）、WFP（150万ドル）、UNHCR（300万ドル）、IOM（220万ドル）、UNDP（150万ドル）、FAO（190万ドル） ・ H24. 12 廃棄物処理機材整備計画（13.46） ・ H24. 12 食糧援助（WFP 経由）（2.70） ・ H25. 3 ジブチ市消防救急機材整備計画（7.36） ・ H25. 11 食糧援助（2.40） ・ H26. 3 海上保安能力向上のための巡視艇建造計画（9.24）	・ 母子保健サービス改善プロジェクト ・ 農業生産改善を通じた食料安全保障向上事業 ・ 南部ジブチ持続的灌漑農業開発計画プロジェクト（開発計画調査型技術協力） ・ デジタル地理データ整備プロジェクト ・ ラジオ・テレビ放送局（RTD）に対する番組制作技術指導（個別専門家） ・ 沿岸警備隊能力拡充プロジェクト

（出所）外務省資料より作成

第3 調査の概要

1. ジブチ沿岸警備隊能力拡充プロジェクト（技術協力）、海上保安能力向上のための巡視艇建造計画（無償資金協力）

（1）事業の概要

（ア）ジブチ沿岸警備隊能力拡充プロジェクト

沿岸警備隊能力拡充プロジェクトは、ジブチ沿岸警備隊に日本人専門家を派遣し、海上法執行機関として、出動態勢や通信体制に関する能力強化を行うものである。海上保安庁職員による沿岸警備隊員への研修（於：ジブチ）のほか、日本や第三国（マレーシア、モロッコ）での研修も行われている。

（イ）海上保安能力向上のための巡視艇建造計画

○E／N（交換公文）等署名

：2014年3月30日

○実施期間：2014年4月～

○供与額：9.24億円

巡視艇建造計画は、ジブチ沿岸の安全を確保するため、ジブチ沿岸警備隊の能力拡充に必要な20m級の巡視艇2隻を供与するものであり、2015年12月2日に引渡し式典を実施した。沿岸警備隊に対しては、2012年にIOM（国際移住機関）経由でボート2隻、救命胴衣、通信機材等の供与、訓練の実施といった支援も行われている。また、1988年の「港湾施設整備計画」（無償資金協力）で調達された船舶のうち、巡視艇1隻及びタグボート1隻も沿岸警備隊が保有している。



（写真）沿岸警備隊に供与された巡視艇2隻

（2）視察の概要

派遣団は、沿岸警備隊を訪問し、同警備隊長官から活動の概要や今後の課題等について説明を聴取した後、日本が供与した巡視艇に搭乗し、湾内を視察した。その後、同警備隊に派遣されているJICA専門家と質疑応答を含む意見交換を行った。

（ア）沿岸警備隊の視察

＜説明概要＞

2010年12月の大統領令により、海軍から独立して沿岸警備隊が創設され、現在170名のメンバーを擁するまでになった。ジブチは、海上交通上の国際的要衝となっているアデン湾に面するとともに、エリトリア、ソマリア、イエメンといった情勢が不安

定な国家を周辺地域に有しているため、沿岸警備の海域が広範囲にわたっている。また、エチオピアやソマリアからジブチを通りアラビア半島に抜けていく難民や不法移民、違法漁船、ゴミや重油の不法投棄等による海上汚染の取締りも任務としている。

特に現在は、対岸のイエメンの戦闘地域からの難民の流入、武器や違法ドラッグ密輸等を監視する能力が求められており、今般日本から供与された2隻の巡視艇により、一層効率的に警備を行うことが可能となる。また、密輸等の監視技術は、日本の海上保安庁の取締り技術を「コピー・アンド・ペースト」したものであり、日本の協力が役に立っている。今般供与された2隻の巡視艇は、沿岸警備隊史上初の規模のものであり、今後沿岸警備隊に導入されていく装備の代表例かつ象徴的なものとなっていくだろう。

<質疑応答>

(Q) 現在の海賊の発生状況如何。

(A) もともとアデン湾沖に出没していた海賊は、沿岸警備隊の創設により、かなり減少している。各国から派遣されている海軍のおかげで、ソマリアの海賊はほとんどゼロに近い件数となっているが、ソマリア国内の貧困状況が改善されない限り、根絶することはないと考えている。現在は、特にイエメンからの難民対策が課題となっている。



(写真) 沿岸警備隊長官から説明聴取

(Q) 長官の経験上、海軍と沿岸警備隊との役割の違いについてどう考えるか。

(A) 沿岸警備隊は、海賊対策も含め、海上における違法行為を取り締まるなどの法執行を直接行うことが可能であり、海上交通の安全を守る仕事にも誇りを持っている。

(Q) パリでのテロ以降、何か変化はあったか。

(A) 大統領令により警戒レベルを高めて、港湾、海岸のパトロールを強化している。

(Q) 日本の支援はどのように役に立っているか、また、今後の支援として何が求められるか。

(A) ジブチ沿岸警備隊は、最も有効に機能している組織の一つであり、沿岸警備隊創設時からの継続した日本の支援は大きな役割を果たしており、大変感謝している。今後も、効果的な取締りが行えるよう支援の継続を希望している。

(イ) JICA 専門家からの説明聴取及び意見交換

冒頭、ジブチ沿岸警備隊に派遣されている JICA 専門家から、同警備隊能力拡充プロジェクトの概要について説明を聴取した後、意見交換を行った。

<質疑応答>

(Q) 訓練当初から、能力水準はどの程度上がってきているか。

(A) 国際法に則った活動という意識付けが研修によって生まれてきているものの、技術的な水準の向上という面では、自分たちのものにする段階にはまだ達していない。

(Q) 沿岸警備隊の隊員のうち、海軍出身の隊員はどのくらいいるのか。

(A) 海軍からの出身者は長官 1 名のみ

であり、軍隊経験者が非常に少ない状況である。急ピッチで創設された組織であり、海上保安ミッションを遂行するための最低限の軍隊教育や士官、下士官教育がまだ追いついていない状況にある。

(Q) 本プロジェクト期間終了後の対応如何。

(A) 2016 年 5 月以降も、引き続き、海上保安能力を向上させたいというジブチ側のニーズがあると考えている。地政学上の重要な地域ということもあり、第 2 フェーズの実施について検討している。

(Q) 当初想定していた水準に達しているか、本プロジェクトへの評価如何。

(A) 海軍から分離した組織であったものの、未経験者が多く、基礎的な訓練から始める必要があった。そのため、当初想定していた目標にはまだ到達していないが、課題については十分共有できたので、今後の検討材料に生かしていきたい。

(Q) モノを援助するのみならず、供与されたモノを運用する能力や仕組みが重要である。今般の巡視艇供与にあたって、行われた研修はどのようなものか。

(A) 巡視艇の供与に先立ち、モロッコに 4 か月間隊員を派遣し、操船と整備の研修を実施した。これとは別に、一定の経験のある 6 名の隊員が日本での習熟訓練に参加し、実地に巡視艇の運用指導を受けた。第 2 フェーズにおいても、巡視艇の装備面での運用管理や、操船技術等の教育システムの構築を検討しているところである。施設等は整備されても、教官が不足しており、沿岸警備隊内部での人材育成等研修システムの構築は、まだこれからという状況である。留学に相当する長期の研修は米国・中国等が行っており、短期の研修も様々な国が受け入れている状況である。その中で、常駐者を置いて支援しているのは日本のみである。



(写真) J I C A 専門家との意見交換

2. 廃棄物処理機材整備計画（無償資金協力）

(1) 事業の概要

○E/N（交換公文）等署名：2012 年 12 月 23 日

○実施期間：2012 年 12 月～

○供与額：13.46 億円

首都ジブチにおいて、ゴミ収集用車両、コンテナ、ブルドーザー等廃棄物処理機材を整備するものである。ジブチ市においては、廃棄物の収集・処理・清掃の関連機材が老朽化等により不足しており、固形廃棄物の収集率が 60%程度にとどまっている。その結果、未収集ゴミが違法な埋立てや野焼きによって処理されており、これにより発生している悪臭、有害物質の発生・拡散、火災・土壌汚染などの問題を改善することが急務となっている。ジブチ市のゴミ収集率が 60%（2011 年）から 100%（2015 年）に向上し、ジブチ市の環境及び衛生状況の改善に寄与することが期待されている。

（２）視察の概要

派遣団は、ジブチ市長及び同清掃局より、説明を聴取した後、質疑応答を行った。その後、日本が供与したゴミ収集車のほか、スペアパーツ置き場、車両整備場・車庫、ゴミ処分場を視察した。

＜説明概要＞

日本から、ゴミ収集車を始め、路面清掃車や圧縮機等計 59 台の機材を供与していたき、効率的なゴミ収集が可能となった。ジブチ史上でもかなりの規模の供与であり、市民も大変感謝している。供与前は、3～4 日に 1 度の頻度で収集にあたっており、収集までの間、ゴミは各家庭の前に放置されていた。供与後は、日本の「赤とんぼ」のメロディを合図に、各家庭がゴミを出すこととなって効率化され、回収過程における機材の規格も統一化されて収集頻度も上がり、街が目に見えてきれいになった。また、これまで多くの女性を雇用して道路清掃に当たっていたが、路面清掃車の供与により、効率的な作業が可能になった。また、過重積載や横転で道路に置き去りにされた遺棄物をつり上げる機械を搭載したトラックの供与により、交通事情にも好影響を与えている。

1 日当たりのゴミ収集量は、日本の供与前は 180 トン／日であったが、供与後、収集効率が向上し、344 トン／日となった。日本以外のドナー国との関係では、EU の資金で新しいゴミ処分場の整備が行われた。また、フランス開発庁（AFD）の支援により、車庫の修理整備が行われた。



（写真）日本から供与されたゴミ収集車

＜質疑応答＞

（Ｑ）日本ではゴミと資源の分別により、意識が変わった。ジブチでの状況はどうなっているか。

(A) 分別やリサイクルの意識はジブチでも重要であると考え。ゴミ焼却による発電計画もあるが、現在はゴミの排出量が不足している状況である。リサイクルは、環境問題のみならず、健康問題にとっても重要な課題である。

3. 中学校校舎建設計画（フクザワ中学校）（無償資金協力）

（１）事業の概要

○E／N（交換公文）等署名：1994年1月12日及び1994年8月2日

○実施期間：1994年1月～

○供与額：9.17億円及び5.48億円

日本の無償資金協力によって1995年に完成した中学校であり、日本の協力の象徴となっている。フクザワ中学校は、日本に対する謝意を表するため、日本にちなんだ名前がジブチ政府によってつけられた。「フクザワ」はアラビア語で「共に開く」を意味し、「日本と共に将来を切り開く」という思いが込められている。2013年8月の安倍総理ジブチ訪問時には、仏語訳された日本の漫画、小説、日本語教材等約100冊が「安倍文庫」として寄贈された。また、理科教育及び体育分野のJICAボランティア隊員が2名派遣されている。

（２）視察の概要

派遣団は、フクザワ中学校を訪問し、同校校長及びジブチ国民教育省官房長より、説明を聴取した後、質疑応答を行った。

フクザワ中学校校長からは、来校を歓迎する、日本から大変よい贈り物を頂き感謝している、フクザワ中学校は、ジブチで最もよい学校の1つであるとの挨拶の後、1995年に日本の支援で中学校が建設された経緯のほか、貧しい地域であるバルバラ地区の初の中学校として建設されたことは意義深い、中学校名は日本の教育者である福沢諭吉にちなんだものである、日本の自衛隊とも文化交流を行っており良好な関係を築いている旨説明があった。

また、国民教育省官房長からは、学校建設により貧しい地域が変化した、20年前から設備は変わらないが生徒数は2倍に増えており、やや手狭になっている、地域からの要望もあり、学校の拡張等新たな支援をお願いしたい旨発言があった。

そのほか、同中学校生徒から、ジブチに伝わる伝統的な歓迎の歌及びダンスが披露された。



（写真）フクザワ中学校の生徒から歓迎を受ける派遣団

その後、派遣団は、同中学校内の教室、グラウンドのほか、安倍総理から 2013 年に寄贈された「安倍文庫」等学校内施設を視察した。

4. 太陽光を利用したクリーンエネルギー導入計画（ジブチ調査研究センター）（無償資金協力）

（１）事業の概要

○E／N（交換公文）等署名：2009 年 12 月 2 日

○実施期間：2010 年 4 月～

○供与額：6.1 億円

ジブチは、地下資源及び水資源に恵まれていないため、必要なエネルギーのほとんどを輸入した化石燃料を用いた発電に依存しており、再生可能エネルギーの開発が急務となっている。この事業は、同国唯一の政府系研究機関であるジブチ調査研究センターに太陽光発電パネルを設置し、太陽光発電による電力を供給するとともに、維持管理に関する技術支援を行うものである。これにより、同国における太陽光発電開発及び技術的訓練の拠点を立ち上げ、今後の太陽光発電施設普及に必要な基盤整備に寄与することを目的としている。

（２）視察の概要

派遣団は、ジブチ調査研究センターを訪問し、同研究センター副所長及び地球科学部長から研究内容及び太陽光発電の状況等について説明を聴取した後、敷地内に設置されている太陽光発電パネル及び管理施設を視察した。

<説明概要>

本研究センターは、国立の研究所である。JICAを通じて東京農業大学と協定を締結し、水、地形地図、農業等の研究協力を行っている。科学の分野においても、日本と協力ができることは大きな喜びである。今後も、会議、セミナー等相互往来を通じ、研究分野での結びつきを強めていきたい。

本研究センターは、ジブチ高等教育省に所属し、6つの専門機関（地質学・地震研究、農業、薬草、経済学・政治学、考古学、言語学）から成る。ジブチの国土の70%が火山地帯であり、日本のODAで地熱開発に係る情報収集及び確認調査（物理探査）を行った。地熱開発は、塩湖の北部がポイントとなっている。なお、地熱公社が2年前に設立され、公社には



（写真）日本から供与された研究所内の太陽光パネル

本研究センターの職員の大部分が移籍しており、ODA関連の調査も合同で行った。

太陽光パネルは、3,000 平方メートルの敷地に 1,400 パネルを設置している。日本製のセンサーを用いて、温度、日射量と発電量との関係等のデータ収集を行い研究している。ジブチでは気温が極めて高いことや砂嵐による砂塵の影響があり、先進国からそのまま技術やデータを適用することができないため、実地で研究を行う必要がある。施設供与後の研究成果として、ジブチでは、高温や砂塵といった発電効率を減少させる要因があるものの、卓越した日照時間が確保できることから、発電量が最小の時期でも日本やドイツの最大の時期のレベルの発電が可能であり、高いポテンシャルを有することが確認されている。

<質疑応答>

(Q) 太陽光発電以外のエネルギー関連研究はどのようなものがあるか。

(A) 地質学の一環として、地熱エネルギーの研究を行っている。

(Q) 本研究センターは教育機関の 1 つでもあるのか。

(A) ジブチ大学には博士課程がないため、仏、米国、カナダ、モロッコ、チュニジア等に留学して高等教育を受けた研究者が戻ってきて研究を行っている。

(Q) ソーラーパネルの生産国は。

(A) 本研究センターに設置してあるものは日本の京セラ製である。なお、ジブチの路上に設置されているものは中国製やインド製である。

(Q) 気温が上がると発電効率が下がる理由は。

(A) 発電機材は先進国向けに 25 度の時に最大発電量となる仕様となっている。ジブチは先進国よりも日射量が多くポテンシャルが高いので、年間の月別平均気温が 28 度から 38 度で推移するジブチに適合した仕様のシステムが開発されることが望まれる。

5. イエメンからの避難民に対する難民キャンプへの輸送手段支援計画（草の根・人間の安全保障無償資金協力）

(1) 事業の概要

○G/C（贈与契約）署名：2015 年 8 月 19 日

○実施期間：2015 年 8 月～

○供与額：7,848,390 円

イエメンにおける情勢の悪化に伴い、ジブチに到着するイエメンからの避難民を念頭に、緊急輸送のために必要となる四輪駆動車 1 台（6 人乗り）及び中型バス 1 台（26 人乗り）を供与するものである。

(2) 視察の概要

派遣団は、ジブチ難民・被災民保護局（ONARS）を訪問し、冒頭、ブルハン内

務大臣から発言があった後、同局、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、WFP（世界食糧計画）、IOM（国際移住機関）の各担当者から概要説明を聴取し、日本の資金協力により導入された四輪駆動車及び中型バス（中国製）を視察した。

<内務大臣発言>

ONARSは、1978年に大統領令によって設置された。これまで多くの難民を受け入れ、保護してきた。エチオピア、ソマリア、エリトリア、イエメンからの難民は2万5千人に及ぶ。UNHCR、WFP、IOM等各国際機関とも連携して支援を行っている。大使館、JICAを始めとした日本の支援に感謝している。

ジブチは小さな国であり、独立から40年経つが、独立の8か月後には既に難民を受け入れ、門戸を開いてきた。エチオピア、ソマリア、エリトリアと国境を接しているが、その中で平和を維持し、難民を受け入れている。ジブチには30万人以上の避難民が流入し、また、経由地となっている。小国には荷が重すぎるため、日本の更なる支援が必要である。また、イエメンの状況が悪化しており、ジブチ北部のオボックに難民キャンプを設置したが、その中には過激分子が潜んでいるおそれもある。我々は反テロリズムの立場であり、海賊の脅威に対しても平和と安定を守る決意があるので、日本からの一層の支援をお願いしたい。



（写真）ブルハン内務大臣との意見交換



（写真）日本が資金協力をした輸送バス

<説明概要>

ONARSは、1978年に内務省傘下の組織として設立された。UNHCRの協力の下、難民・被災民を対象に、生活条件を向上させることなどを目的としている。ジブチにおいては、主にイエメン難民を支援するオボック地区、ソマリア系の難民を支援するアリアデ地区及びホルホル地区の3つの難民キャンプで受入れを行っている。ジブチ国内の登録された難民は20,085人であり、アリアデ地区に約1万人、イエメンからの難民が約6千人、そのほかホルホル地区等に2千人程度となっている。

主な活動内容は、難民登録、キャンプ内の紛争調停、UNHCRやNGOとの連携、食料援助、仕事のあっせん等である。難民支援のため、3万トン規模の倉庫2棟、80トンのトラック6台、50立米の水槽タンク10基を有しており、今後も整備基地、ト

ラック等を増やすことを検討している。2015年8月に日本からバス及び四輪駆動車が供与され、一層の輸送能力の向上と効果的な支援が可能となった。我々と日本は良好な関係を築いており、感謝している。以前、アリアデ、オボックの難民キャンプにはJOCVが派遣されていたこともある。

そのほか、UNHCRからは、日本からの多大な支援に感謝している、日本はジブチでのUNHCRの活動に対する最大の支援国である旨、WFPからは、日本の支援に感謝している、2015年3月のイエメン危機後はオボックにおけるイエメン難民対応が最大の課題となっている、食料支援を含む90万ドルの緊急人道無償資金に感謝する旨、IOMからは、日本からの緊急人道無償資金のほか、エチオピア国境での検問等国境管理の分野への支援があり、大変感謝している旨、それぞれ発言があった。

第4 意見交換の概要

1. モハメッド国民議会議長

派遣団は、モハメッド国民議会議長を訪問し、同議長及びジブチ・日友好議連会長等の議会関係者と意見交換を行った。

<意見交換>

(議長) 国民議会への御訪問に感謝する。友好国である日本の参議院議員の方々をお迎えできることは、大変光栄である。

日本によるこれまでの様々な支援、特にフクザワ中学校の建設について感謝している。また、ジブチに自衛隊拠点を置いていることについても誇りに感じている。自衛隊の活動により、海上安全保障上の脅威である海賊が減少している。2隻の巡視艇供与及びフェリーの供与についても感謝している。タジュラ地区の副知事だった際、日本がタジュラ地区で小学校を計画と寸分変わらず4か月ちょうどで完成させたことが印象に残っている。

2015年5月にIPU若手会合で訪日した際、参議院議長にお会いするとともに、参議院を訪問した。ジブチ国民議会の音響設備・技術について、日本の支援をお願いしたい。訪日時には、防衛大臣政務官とも面会し、軍民協力を進めていきたい旨伝えた。

(派遣団) 昨日、沿岸警備隊に供与した巡視艇を視察した。今後も自衛隊、海上保安庁に対する協力及び支援をお願いしたい。引き続き、海賊対処を含め、両国の友好関係を強固なものにしていきたい。

(事務局長) 議会人同士が両国の友好関係を深めていくことが重要である。また、当地で活躍する青年海外協力隊(JOCV)に感謝している。JOCVの方は、ジブチの地元社会に溶け込んでおり、その適応能力が高いことは素晴らしいことである。特に、当地で重要な「女性の自立」という分野で多くの隊員が活躍されている。

(ジブチ・日友好議連副会長) 今後、議会間の協力も進めていきたい。教育分野の協力はもちろんのこと、今後は地熱開発分野も有望と考えている。我々の開発を阻害しているものの1つは、エネルギーの不足である。エネルギー開発、とりわけ地熱開発は、日本が多くの知見を有していることもあり、今後も協力関係を深めていきたい。ジブチでは、海賊対処のための拠点を各国が置いているが、ジブチの地元社会と



(写真) モハメッド国民議会議長ほか国民議会関係者との意見交換

各国軍隊との調和を保つことが重要であり、この点、日本は豊富な知見を有していると考えている。

(派遣団) 地熱開発については、ベースロード電源として重要であり、今後も協力関係を深めたい。

(議長) ジブチ国民の日本に対する印象は、特に教育分野で大きな支援をしていただいていることが大きい。教育が国の力になる。今後も協力を願う。そのためにも、議員同士でも友好を深めることが重要であり、我々も努力していきたい。

2. ユスフ外務国際協力大臣

<意見交換>

(大臣) 来訪を歓迎する。両国は年々友好関係を深めていっている。

昨年、日本からゴミ収集車と消防救急機材の2件の供与を受けた。これらは市民生活の安全や質を高めるために有益なものとなっている。また、2隻の巡視艇も海上安全保障を守る上で大変有用な資産になっている。さらに、来年には道路機材の供与を受ける予定である。そのほか、日本には、インフラ、教育、保健、水供給の面で大きな貢献をいただいております、脆弱な立場に置かれている人々に対する直接的な支援となっている。多国間協力の枠組においても、国連世界食糧計画(WFP)による食料援助などを受けている。

日本からは、独立以来継続した支援や協力をいただいております、大切な友人である。中国との関係もあるが、日本の利益に反することを行うつもりはないので安心してほしい。

(派遣団) 日本は、ジブチに対して継続して支援してきたという自負がある。これからも人間関係を基礎に、発展的に協力関係を深めていきたい。

(大臣) かねてより日本に対し、ソフトローンによるインフラ整備支援を要望している。インフラ整備は、中国の専売特許ではないので検討してほしい。



(写真) ユスフ大臣との意見交換を終えて

第5 自衛隊拠点の視察及び関係者との意見交換

派遣団は、ソマリア沖・アデン湾において海賊対処行動を実施する自衛隊拠点を訪問した。拠点で活動に従事する隊員と意見交換を行った後、古庄信二・派遣海賊対処行動支援隊司令1等陸佐及び菊地秀雄・派遣海賊対処行動航空隊司令1等海佐からジブチにおける海賊対処部隊の編成、拠点施設の概要等について説明を聴取した。また、P-3C哨戒機、隊員が生活する宿舎、厚生施設、医務室等拠点内を視察した。



(写真) 自衛隊拠点

第6 青年海外協力隊員との意見交換

派遣団は、ジブチで活動する青年海外協力隊11名と意見交換を行った。冒頭、出席者から、それぞれの活動状況等について説明を聴取した後、これまでの活動経験から見たジブチの特色、日本の協力に対する期待、生活環境への適応、地元市民との交流等について意見交換を行った。



(写真) JOCVとの意見交換を終えて